

## 中学校国語科 実践事例 I ~「深い学び」の実現に向けて~

単元名  
「論理の展開を意識して書こう」  
(国語3 光村図書)  
第3学年 B書くこと

内容のまとめ  
第3学年  
[知識及び技能] (2)情報の扱い方に関する事項  
[思考力、判断力、表現力等] 「B書くこと」

## 1 単元の目標

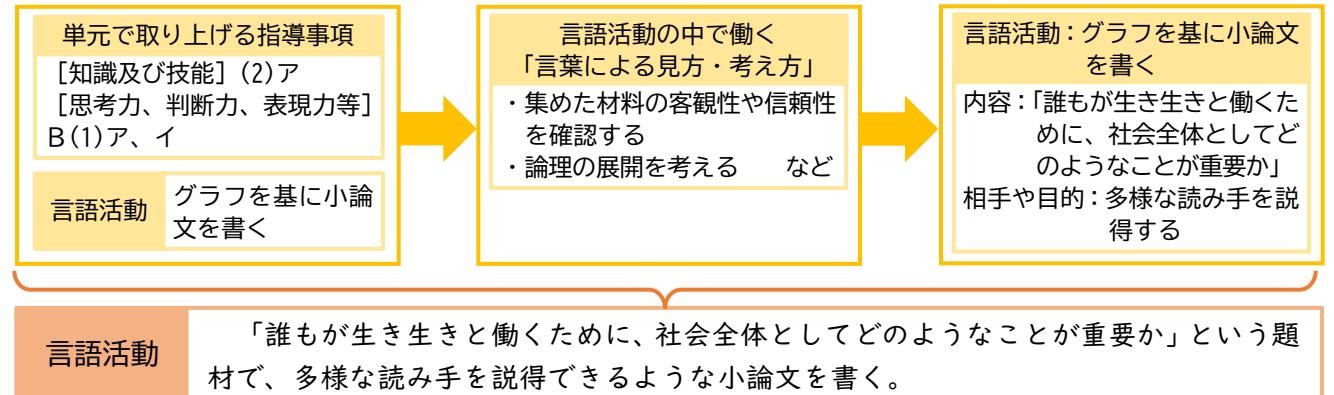
- (1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。 [知識及び技能] (2)ア
  - (2) 目的や意図に応じて、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)ア
  - (3) 多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)イ
  - (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。
- 「学びに向かう力、人間性等」

## 2 「言葉による見方・考え方」を鍵に、「深い学び」につなげるために

- (1) 本単元における「深い学び」を実現している姿とは  
「多様な読み手を説得できるような小論文を書く」という言語活動に取り組む中で、集めた材料の客観性や信頼性を確認したり、論理の展開を考えて文章の構成を工夫したりしている姿のこと。

## 2 授業の実際

## ポイント① 「言葉による見方・考え方」を働かせる言語活動を設定する。



## ポイント② 単元を通して、生徒が「言葉による見方・考え方」を自覚的に働かせることができるようにする。

## 【指導の計画（全5時間）】

時	主な学習活動
1	○小論文について知る。 ○単元の目標や計画をつかみ、単元全体の学習の見通しをもつ。
2	○小論文で書く意見を決め、【資料】の図表の中から適切な根拠を選ぶ。
3	○多様な読み手を説得できるように論理の展開を考え、文章の構成を考える。
4	○小論文の下書きを書き、自己評価をする。 ○グループで下書きを読み合い、相互に評価する。 ○読み手からの指摘や他の生徒の書いた下書きを読んで気付いたことを基に、推敲し、清書する。
5	○単元の学習で学んだことを確認し、新たな題材で小論文を書く。 ○単元全体の学習の振り返りをする。

ポイント②の具体を、第1時、第2時、第5時を取り上げて、説明します。

## 第1時 単元の見通しをもつ場面

## 単元の見通しをもつことができるよう説明する

単元で育成を目指す資質・能力や言語活動について説明することで、生徒は、どのようにして小論文に説得力をもたせるのかを考えながら言語活動に取り組むことができるようになります。

単元の目標は右のとおりです（資料1）。  
論理の展開とは、意見を導くための筋道の通った考えの進め方のことです。  
小論文の読み手は不特定多数の多様な読み手を想定しています。  
多様な読み手を説得できるように論理の展開や文章の構成を工夫して、小論文を書きましょう。



※ハイライト…言語活動の相手や目的

○単元の目標  
この単元では、資料から情報を的確に読み取り、それを基に考えたことを論理的に表現する力を伸ばす学習をします。  
「誰もが生き生きと働くために、社会全体としてどのようなことが重要か」という題材で、多様な読み手を説得できるように論理の展開や文章の構成を工夫して、小論文を書きましょう。

資料1 単元の目標

※傍線部…本単元で育成を目指す資質・能力  
二重線部…言語活動の相手や目的  
破線部…単元で取り組む言語活動

生徒は小論文を書くのは初めてです。そこで、意見文と小論文とを比較し、その違いを考えることで、小論文の特徴を捉えることができるようになります。生徒は、小論文の特徴を捉えることで、単元の見通しをより明確にもつることができます。

小論文とは、どのような文章でしょうか。意見文と小論文のモデルを比較して（資料2）、その違いを考えることで、小論文の特徴を捉えましょう。その際、「意見」「根拠」「正確性」などに注目しながら考えてみましょう。

※ハイライト…意見文の学習の際に働き、本単元においても重要な「言葉による見方・考え方」



資料2 意見文と小論文のモデル

どちらにも「意見」と「根拠」が書かれていますが、小論文の方がより客観的に感じられます。「根拠」として、グラフの数値が示されていて、「正確性」があるからです。

意見文は、「根拠」に自分の考えを書いて、「意見」につなげています。小論文は、「根拠」に事実から考えられることを誰にでも当てはまるように書いて、「意見」につなげているので、客観性があります。



小論文には客観性があり、「根拠」の「正確性」と、「意見」と「根拠」の関係をどのように示すのかが重要、ということですね。誰にでも当てはまるようにすることを、「一般化」と言います。事実を誰にでも当てはまるように解釈することが、客観性をもたらすことにつながります。

## 第2時 小論文で書く意見を決め、適切な根拠を選ぶ場面

言語活動の中で、どのような「言葉による見方・考え方」を働きかせるのか意識できるような発問を行う  
【資料】の図表から読み取った事実やその事実を根拠としてどのように「意見」とつなげるのかを整理し、吟味することで、生徒が「言葉による見方・考え方」を働きかせることができるようにします。また、生徒の学習活動を見取り、適宜、「言葉による見方・考え方」を意識できるような声掛けを行なうようにします。  
<書く材料をワークシートに整理する>



ワークシートに、選んだ【資料】の図表から読み取った事実やその事実をどのように「意見」とつなげるのか整理しましょう。  
※傍線部…「論理の展開」に必要なこと

「言葉による見方・考え方」を意識できるようになる發問

### <ワークシートに整理した内容について吟味する際のポイントを明確にする>



意見と根拠の関係の示し方について、多様な読み手を説得することができるものになっているか確認をします。どのように注目して確認すればよいですか。  
※二重線部…言語活動の相手や目的

「言葉による見方・考え方」を意識できるようになる發問



「多様な読み手を説得できるような小論文を書く」という目的で、論理の展開に注意して小論文を書いているので、多様な読み手に納得してもらえるような、筋道の通った考えの進め方になっているかを確認する必要があります。



### <ワークシートに整理した内容についてグループで吟味する>

意見	意見と事実の関係を示す部分	【資料】の図表から読み取った事実
が取コだ 大れみ 大切 です。 うう に なる こ と が な	りきき仕 事には いのス く、レ 必うレ 要まス がくは あ向つ	り超働 りも ます。て いのス く、ト 必うレ 要まス がくは あ向つ

資料3 ワークシート



どうやら、論理の展開に飛躍があるようですね。どのようにことを説明すれば、客観性のある筋道の通った考えの進め方になるか、考えてみましょう。  
※傍線部…「論理の展開」に必要なこと

「言葉による見方・考え方」を意識できるようになる發問

なぜ「職場で、円滑なコミュニケーションが取れるようになることが大切」と言えるのか、その理由を説明したらよいと思うよ。



なるほど。「コミュニケーションを取ること自体が、ストレスの軽減につながる」という研究結果があるんだ。それと、普段からコミュニケーションを取ることで、相談しやすくなっている、ストレスが生まれにくくなると思ったんだよね。



それが、「意見と事実の関係を示す部分」に書いてあると、客観性のある筋道の通った考えの進め方になって、説得力が高まるね。



筋道の通った考えの進め方についてヒントを得ることができましたね。ほかの人の意見と根拠の関係の示し方についても、同様に確認ていきましょう。



## 第5時 「言葉による見方・考え方」を、再度働きかせる場面

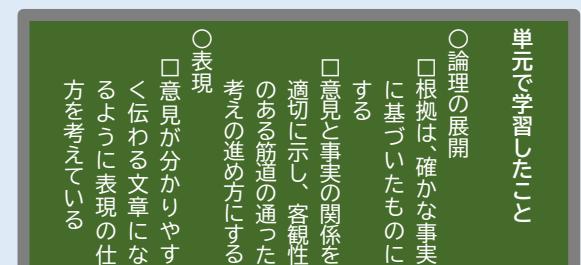
「言葉による見方・考え方」を働きかせる場面を繰り返すような単元構成にする

本単元では、単元の終末に単元で学習した言語活動と同様の課題に取り組む場面を設定し、その上で単元全体の学習を振り返ることで、言葉への自覚をより高めることができます。

### <単元の学習で学んだことを確認し、新たな題材で小論文を書く>



単元で学習したこと（資料4）を生かして、新たに「誰もが安心してSNSを利用するために、社会全体としてどのようなことが重要か」という題材で小論文を書きましょう。



資料4 単元で学習したこと

事実からどのように意見が導き出されたのか十分に説明して、説得力のある小論文にしよう。

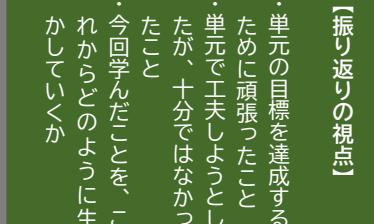
学習した内容を活用することで、学習したことについて、より深く理解する

### <単元全体の学習を振り返る>



2回目の小論文は、単元で学習したことを生かして書きましたね。

それでは、3つの視点で、単元全体の学習を振り返りましょう（資料5、資料6）。



資料5 振り返りの視点

根拠とする事実と意見との関係に注目するなど、論理の展開を意識して小論文を書くことができた。今後、自分が話したり書いたら、表現するときに気を付けたい。また、スピーチなどを聞いたり、説明的な文章を読んだりするときも、論理の展開に飛躍がないか十分吟味するようにしたい。

資料6 振り返りの例

※ハイライト…働きかせた「言葉による見方・考え方」

学習したことについて文章で書くことで、言語活動の中で働きかせた「言葉による見方・考え方」について、再度意識し、ほかの単元で生かそうとするなど、言葉への自覚を高めている

「言葉による見方・考え方」を働きかせる言語活動を設定し、単元を通して、生徒が「言葉による見方・考え方」を自覚的に働きかせることができるようになります。

単元を通じた学習の中で、生徒が繰り返し「言葉による見方・考え方」を働きかせができるようになります。これにより、言葉への自覚を高めることになり、「深い学び」の実現につながります。